岩手県社会福祉事業団 機関誌

みんなの広場

※上のイラストは、題字と同じ内容を指文字と手話で表したものです。

主な内容

●岩手県社会福祉事業団「個別人材育成計画」について …… 2
●被災地での交流イベント～広げようみんなの輪、笑顔の輪 …… 3
●やさわの園改築工事について
●シリーズ　法人の新しい取組み② …… 4
●イベント特集 …… 5
●［特別企画］ …… 6、7
～共同生活事業所担当職員による座談会～
●各施設から …… 8
・製品紹介（松風園）
・東京ソラマチ「ぴょんぴょん舎 Te-su」の看板、みたけの園が製作!!

113号
平成24年10月1日発行

☆たばしね学園　～気仙沼市鹿折地区仮設商店街　移動おもちゃ図書館～

～ある夏の日の風景～

☆療育センター　医療型児童発達支援センター「つくしんぼ」
～みんなで水遊び　楽しいね♪♪～

みんなの広場　2012　第113号　平成24年10月1日発行
発行／社会福祉法人岩手県社会福祉事業団　〒020-0114　盛岡市高松三丁目7-33
電話　019-662-6851　FAX　019-662-8044
URL　http://www.iwate-fukushi.or.jp　E-mail　fukushij@iwate-fukushi.or.jp

「乾燥りんご」

（障害者支援施設　松風園）

乾燥りんごが誕生して2年目を迎えました。イベントや定期販売で売り切れが続き、最後に鹿児島県から100袋の注文があり、遂に在庫がなくなってしまうほどでした。

生でも美味しい岩手県産の江刺りんごを乾燥させると、凝縮された甘味とほのかな酸味が漂い、お客様から簡単に2～3個分を食べてしまうほど美味しいと好評をいただいております。お客様から「今年も早く食べたい」という要望にお応えして、乾燥させる機械を1台追加し、昨年度よりも増産が望めそうです。包装についてもチャック付きにするなど工夫・改善し、品質にこだわった製品作りに努めていきます。

内容量にもよりますが、販売価格は1袋200円～250円です。注文販売のご相談にも応じますので、りんごが美味しい季節になりましたら、お早めにご利用ください。詳細については、下記までお問い合わせください。

（職業指導員　嵯峨　知義）

♪♪サクッ サクッ♪♪
ほんのり甘いりんごの
風味です!!
一度ご賞味を～♪

《お問い合わせ先》
〒028-3171 岩手県花巻市石鳥谷町中寺林7-46-3
障害者支援施設「松風園」（担当:嵯峨）
TEL 0198-45-3016　FAX 0198-45-3017

新採用職員紹介

療育センター
看護師
佐々木郁子
〈平成24年9月1日付採用〉

療育センター
看護師
菅原貴子
〈平成24年9月1日付採用〉

療育センター
相談支援員
佐藤照貴
〈平成24年10月1日付採用〉

東京ソラマチ「ぴょんぴょん舎Te-su」の看板 みたけの園が製作!!

焼肉・冷麺のぴょんぴょん舎様から、東京スカイツリー隣接の東京ソラマチ内に出店する店舗用看板の製作依頼がありました。同店は過去にも当園のガラス細工を飾っていただくなど、当園のガラス細工に高い関心をもっていただいており、親交があったことから、今回の依頼をいただいたものでありました。

4月20日までの納期という中で試行錯誤すること3週間、スタッフ全員、毎日原材料のビール瓶と石膏の型枠とのにらめっこの日々でした。窯の温度とガラスの溶け具合がうまくいかず、何度もやり直すこととなりました。最終段階では、ぴょんぴょん舎スタッフの方々の協力もいただき、無事に納入することができました。

「ぴょんぴょん舎Te-su」の看板
テエスとは、大きな木の意。

また、試作品ながら、東京スカイツリーのオブジェも数個作成しました。とても好評をいただき、6月のぴょんぴょん舎での販売イベントでは即日完売となりました。

こうした、県内大手の企業からの依頼を完遂できたこと、また製品に対して高い評価いただいたことは、ガラス工芸に携わる利用者と職員の「力」となり、今後の製品製作に自信と誇りをもって一同取り組んでいくことができます。この場をお借りして、ぴょんぴょん舎様には改めてお礼を申し上げます。皆様も、東京スカイツリー、東京ソラマチにお出かけの際は、ぴょんぴょん舎出店の「Te－su」に立ち寄り、看板をご覧いただきたいと思います。

（職業指導員　紺野　真）

東京スカイツリーのオブジェ

岩手県社会福祉事業団

個別人材育成計画のねらい
～「期待する職員像」に近づくために～

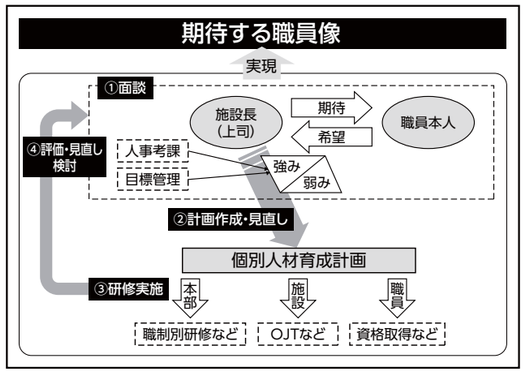
期待する職員像

当事業団では、昨年度から新たに「教育研修制度」を導入し、人事考課制度、目標管理制度との有機的な連携を図りながら、人材育成を進めております。同じく昨年度に策定した「中長期経営基本計画」の中で、経営理念・経営基本方針に基づく事業経営を実現するため、「期待する職員像」を示し、研修や自己啓発を行ううえでの指針としました。

面談重視の計画

本年度からは、職員一人ひとりについて「個別人材育成計画」を作成し、計画に基づいた人材育成を進めようとしています。個別人材育成計画は、将来の働き方について、上司の期待、職員本人の希望や、職員の強み・弱みなどを、互いに面談で確認したうえで作成します。面談を重視することで、共通の見通しを持ったうえで人材育成を進めようというものです。

具体的には、職員本人が5年後にどんな仕事や役割を担っていたいか、上司はどんな期待を寄せているかなどについて確認したうえで、中期的な目標と短期的な目標を設定します。上司は、その目標の達成のために受講が必要と思われる研修や、職場でのＯＪＴ（職務を通じての研修）の内容を、具体的な研修計画として設定します。この他に、事業団本部が職制別に行う研修や、職員自身が自己啓発のために行うとした研修についても、計画に盛り込みます。



個別人材育成計画イメージ図

年度の中間で、職員は上司と面談を行い、計画の中間評価をします。職員と上司が、それぞれに研修の理解度や技術などの習得度について評価を行い、その評価結果を踏まえて、必要な場合には計画の見直しを行います。この場合も、互いに見直しの意図について面談で確認し、共通認識を持ったうえで、計画の変更を行います。

同様に年度末には、計画について年間の評価を行います。翌年度の計画について見直しが必要となった場合も、同じく面談を通じて、共通認識を図ります。

職員が、他の職場に異動することになった場合、施設長は年間の評価と見直しを行った個別人材育成計画と、職員の研修履歴を、新しい職場の施設長に引き継ぎます。引き継ぎを受けた施設長は、職員が赴任した後、職員と面談を行い、その職員の新しい職務内容なども考慮して、計画を見直します。また、職員が同じ職場で昇格したり、業務内容が大きく変わった場合も、必要に応じて、計画を見直します。

今後の課題

個別人材育成計画という、新しいツールを使って人材育成を進めようとスタートしましたが、様々な課題もあります。具体的な目標を設定して人材育成を行うという方法は、これまでにないやり方であるため、職員の中には、数年後の自分がどのような仕事をしているか、していればいいのか、具体的にイメージできないという方も少なくないようです。上司の側にとっても、「あなたにはこのように育ってほしい」というメッセージを、具体的に計画として伝えることは、その職場にとどまらず、当事業団全体の経営や人材育成という視点が求められます。

まだまだ、試行錯誤の段階ですが、個別人材育成計画の活用を進めなければならないのは、今後5年の間に20％の職員が定年退職し、今後10年間でみれば50％弱の職員が定年を迎えるという、深刻な状況があるためです。事業団の経営を維持発展させていくためには、ベテラン職員の経験やノウハウを、確実に受け継ぎながら、一方で、中堅、若手職員の人材育成について、上司と職員自身が互いに自覚し、協力しながら進めていかなければなりません。

よりよいものに見直しを

当事業団の財産であり経営の基盤となる「人材」を、「期待する職員像」に向けて大切に磨いていくため、教育研修制度と個別人材育成計画が有効に機能できるよう、職員の皆さんの意見をうかがい、よりよいものに見直していくことが重要だと思っています。

（事務局　企画業務主査　與羽　勝則）

被災地での交流イベント
～広げようみんなの輪、笑顔の輪～

松風園では、「自分たちにできる支援をしたい」という思いから、東日本大震災で被害を受けた方々へ、施設で生産した製品を提供する活動を行ってきました。

8月4日に宮古市西が丘仮設団地で行われた、岩手県被災者自立支援事業の交流イベントにも、自家焙煎コーヒー、クッキーやかき氷を用意し、参加しました。

今回は、交流イベントの趣旨に賛同いただいた日赤奉仕団石鳥谷支部（花巻市）のご厚意により、深夜2時から準備をしていただいたひっつみやおにぎり、キュウリやジャガイモなどの朝採り野菜を提供したほか、中山の園地域支援部（一戸町）の協力を得て、「移動おもちゃ図書館」を開館しました。

交流イベントに参加した住民の方々から「ひっつみ、おいしかったよ」、「お代わりはありますか」といった言葉が聞かれ、おもちゃで楽しそうに遊ぶ子どもたちの姿が多くありました。

今回のイベントでは、それぞれが持つ小さな力が大きな輪となり、笑顔の輪となりました。今後も、交流イベントをとおして、笑顔の輪を広げる支援を続けていきたいと思います。

（松風園　職業指導員　嵯峨知義）

日赤奉仕団のみなさんと

被災地へ届け!!

岩手県社会福祉事業団

被災地における支援活動状況と今後の予定

☆発達障がい沿岸センター（釜石市）

●就学前児童に関わる関係機関のワークショップ
（釜石・大槌地域障がい者自立支援協議会との共催）
平成24年8月1日㈬
～釜石市保健福祉センター～

●特別支援教育地域支援事業「夏季研修会」
平成24年8月2日㈭　～釜石祥雲支援学校～

●医療・保健・福祉・教育・心理専門職のためのアセスメント実践研修会
（宮古圏域障がい者自立支援協議会との共催）
平成24年8月4日㈯　～宮古地区合同庁舎～

●宮古圏域発達支援セミナー（宮古圏域障がい者自立支援協議会との共催）
平成24年10月20日㈯
～山田中央公民館大ホール～

☆たばしね学園（奥州市）

●移動おもちゃ図書館、手作りおもちゃ教室、おもちゃ病院
平成24年8月10日㈮
～気仙沼市鹿折地区仮設商店街～

☆松山荘（宮古市）

●松山荘夏祭りに山田町のはまなす学園の利用者を招待
平成24年8月19日㈰

☆いわて子どもの森（一戸町）

●沿岸被災市町村の児童、保護者、関係者を1泊2日または日帰りの日程で招待し、遊びを提供。
【実施期間】平成24年11月～平成25年2月

やさわの園が新しくなります!!
（花巻市）　～改築工事～

1　改築までの経緯

昭和49年の開設から38年を経過した「やさわの園」は、老朽化した施設の改築が長年の課題でした。平成21年度に県の整備基本計画が策定され、翌年度から本格的な整備が始まりましたが、昨年の東日本大震災の影響で、一旦、整備は休止となりました。しかし、やさわの園家族会が知事へ陳情を行うなどした結果、休止が解除され、現在は平成25年春の開所に向けて、着々と工事が進んでいます。工事中は、利用者の移動には必ず職員が付き添うなど、安全面には十分に配慮しています。

やさわの園　完成イメージ図

2　新園舎の概要・特徴

新園舎は、現園舎の隣に建設中で、鉄筋コンクリート平屋造り、延べ床面積が2,848平方メートル、現在の約1・5倍の広さです。居室は約7畳の広さの個室が中心で、プライバシーに配慮し、冷暖房も完備されます。短期入所利用者の専用居室も整備するなど、在宅の障がい者の利用も重視した施設になっています。

（主任生活支援員　吉田　二郎）

シリーズ 法人の新しい取組み②

今年度からスタートした事業所等を3回にわたって紹介します

共同生活事業所「中山の園」支援員常駐型ケアホーム なのはなホーム（一戸町）

この4月に開所した、一戸町の「なのはなホーム」について、共同生活事業所「中山の園」のサービス管理責任者である高山竹彦地域福祉主査と久慈幸大生活支援員に取材しました。

〈はじめに〉

障がい者が地域生活移行を実現し、その生活を継続していくためには、高齢化や障がいの重度化に対応したバリアフリー型ケアホームの整備が必要との考えから、なのはなホームの整備は始まりました。賃貸住宅では改修等も困難であるため、共同生活事業所「中山の園」が、当事業団としては初めて、自前のホームとして、国と県からの補助金をいただいて整備したものです。

〈設備は？〉

なのはなホームは、近くに商店や駅があり、生活に便利な場所にあります。玄関や室内に段差がなく、廊下の幅も広いつくりで、車いすの方の利用にも配慮されています。共有スペースや廊下には大きな窓や天窓があり、室内はとても明るい印象です。

窓が大きく、とても明るいリビング

また、設備では、火を使わないオール電化で、スプリンクラーや消防署への直通電話が整備されており、トイレには職員呼び出しボタンもあるなど、安全面に配慮されています。居室は全て個室で広さは7畳、プライバシーを確保し、ゆっくりと生活できる空間となっています。

〈利用者の生活・職員の支援は？〉

現在、なのはなホームを利用している方は、定員いっぱいの7人です。利用者の方は、平日は地域の生活介護事業所などを利用し、休みの日は、職員と一緒に居室の掃除や洗濯をしたり、買い物に出かけるなど、思い思いに休日を満喫しているとのことでした。

職員は、ホーム内の清掃や食事作りなどの家事的支援、入浴や外出の介助などを行うほか、夜間もホームに常駐して、利用者の方が安心して過ごせるように支援しています。食事については、要望をできる限り取り入れた献立にするほか、利用者の身体機能や疾患に合わせて、食事の量や形状に気をつけながら提供しているそうです。また、利用者の方々の体調管理にも気をつけながら、一人ひとりに合わせた支援内容の工夫や、プライバシーへの配慮などにも心がけているということです。

天窓があり、明るく広い廊下

誰でも利用しやすいトイレ設備

〈おわりに〉

なのはなホームの取材を通じて終始感じたことは、安全で快適に生活することができるホームだということです。高齢になっても、車いすを使用するようになっても、多くの方々に、このホームで安全かつ快適に、地域生活を続けていただきたいと思いました。

平成24年4月に開所した「なのはなホーム」外観

（取材　つつじ　生活支援員　高橋　優希）

子どもの森

サマーフェスティバル2012
～地球とタッチ！ぼくらは世界とつながっている！～

ジンバブエの子どもたちによる
伝統音楽とダンス♪

「大地のひびきコンサート」
こどもさんさとの
コラボレーション！

たばしね学園

～イオン前沢店で
手作りおもちゃ教室～

ボランティアや
おもちゃドクターに
協力をいただきました。

「ぱたぱたペンギン」と
「ゲロゲロかえる」作り♪

和光学園

学園に
「うまっこパーク」から
かわいいポニーが
やってきました♪

中山の園 りんどう

～納涼会にて
スイカ割り大会!!～

好地荘

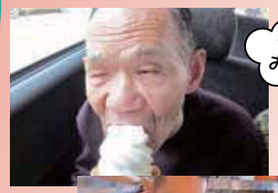
また来年も行こうね!!

～仙台方面へ一泊旅行～

～青森方面へ一泊旅行～

中山の園 つつじ

～小岩井農場にて
ソフトクリーム♪～



～花巻マルカンデパートにて～

各施設 イベント特集♪

※1　「共同生活介護」（ケアホーム）・・・障がい者に対し、主に夜間において共同生活を営む住居において入浴、排せつ、食事の介護等のサービスを提供するもの。
※2　「共同生活援助」（グループホーム）・・・地域で共同生活を営むのに支障のない障がい者につき、主として夜間において、共同生活を営むべき住居において日常生活上の援助を行うもの。

特別企画 共同生活事業所 担当職員 座談会

小林常務理事兼事務局長
【司会】

小林　本日は、※1共同生活介護（ケアホーム）事業及び※2共同生活援助（グループホーム）事業を担当する職員の方々に集まっていただきました。今日の座談会では、共同生活事業所における支援や、事業所の課題などをみなさんで共有し、当法人としての共同生活事業所のあり方を探っていければと思います。**（各事業所の状況については表1のとおり。）**

★（小林）共同生活事業所における支援についてはいかがですか。

ご本人の希望や能力に応じた細やかな対応を（立花）

立花　共同生活事業所「みたけの園」は、障がいが軽い方から重い方まで幅広く、ホームが盛岡市近郊にあり、生活しやすい環境にあり、そのため、入居も多数あります。また、障害程度区分の幅が1から6までと広く、世話人と個別の希望や能力に応じた細やかな対応に努めています。

共同生活事業所「みたけの園」
サービス管理責任者
立　花　みどり

小林　障がい者の地域生活を支えるのは、世話人でもありますので、世話人が働きやすい環境を整えることも、みなさんの役割であると思います。

困ったときにすぐに相談できる体制づくりを（主濱）

主濱　共同生活事業所「二戸」では一般就労されている方が多く、就労先と密に連携し、本人が困ったときにはすぐに相談できる体制づくりに努めています。共同生活事業所「八幡平」では、入居者から、アルバイトの面接や、就職説明会に行ってきたとの報告を受けることもあります。実際に就労に結び付くケースは少ないですが、本人の希望になるべく沿うよう、就職に関する情報を提供しています。

中山の園管理センター
地域支援部長
主　濱　　隆

障がい種別の異なる支援の難しさ（今野）

今野　共同生活事業所「じゃんぷ」の入居者は外出など、有意義な余暇を過ごしているようです。その分、職員や世話人の目が行き届かない部分もあり、また、障がいの種別が異なる方々へ一つのホームで支援することの難しさも感じています。

佐々木　「ちふな」は開所当時からホームのメンバーが同じで、互いに協力し合って生活しています。逆に、自分でできることも手伝ってもらうのが当たり前という入居者もいて、ご本人の自立のためにも、可能な範囲で入居者の入れ替えを検討する必要もあると思います。

及川　共同生活事業所「オリザ」では、障がいが重い入居者も多く、意思表示が難しい分、入居者の行動の裏側にあるものを推測したり、発作の前兆を把握することなど、十分な支援が行き届いているのかという視点を大切にしています。また、比較的、障がいの軽い方については、行動範囲が広い分、自分たちの支援にも限界があり、入居者の力を信じて待つというのが現状です。

★（小林）共同生活事業所の課題、今後の展望についてはいかがですか。

入居者の高齢化への対応が課題（佐々木）

佐々木　「ちふな」の場合は、松山荘を退所した高齢の方が入居される割合が高く、高齢化が進んでいます。一方で、あえて松山荘から地域移行を希望する若い入所者は少ないため、高齢の入居者をどう地域で支援していくか、例えば、支援員常駐型のホームの立ち上げ等が課題となっています。

松山荘
地域福祉主査
佐々木　伸一郎

今野　今後、入居者の高齢化に伴い、糖尿病などの成人病に罹患する利用者の増加が懸念されます。今は、入居者は自由に飲食していますが、今後は栄養士などの指導を受けて、健康面を意識した食習慣などについて、支援にあたる必要があるかと思います。

主濱　現在、入居者の約60％が50歳以上で、医療的支援が必要な方が多く、通院先も多岐に渡り対応に追われています。また、加齢のために一般就労から福祉的就労へシフトせざるを得ない場合もあり、次の活動の場を確保する支援も必要です。

立花　現在、糖尿病などの疾患がある入居者に対して、病院の栄養指導のもと、世話人が食事の提供をしています。今後は、単価は高くなりますが、病人食を配達する業者の活用も検討したいと考えています。

～2012年9月11日㈫開催～

地域福祉の重要性が問われている今日、共同生活事業所（ケアホーム・グループホーム）の現状と課題など、担当職員の方々に熱く語っていただきました!!

■表1 各事業所の状況　　平成24年9月1日現在

共同生活事業所名（所在地）	ホーム数	定員（人）	主たる対象者	平均年齢（歳）	平均障害程度区分
みたけの園（盛岡市・滝沢村）	13	66	知的障がい者	36.0	3.1
ちふな（宮古市）	5	23	知的障がい者	59.7	2.6
中山の園（一戸町）	10	56	知的障がい者	51.8	3.2
二戸（二戸市）	3	15	知的障がい者 精神障がい者		
八幡平（八幡平市、岩手町）	4	21	知的障がい者 精神障がい者		
オリザ（花巻市）	3	17	知的障がい者 精神障がい者	37.0	3.7
じゃんぷ（花巻市、北上市）	10	54	知的障がい者 精神障がい者	35.8	2.2

支援体制の強化が必要（主濱）

今野　現在は花巻市と北上市にホームが点在しており、迅速な支援体制を図るためには、その中間に支援の拠点を設ける必要があると思います

共同生活事業所「じゃんぷ」
サービス管理責任者
今　野　ふみ子

佐々木　「ちふな」の場合も、ホームが宮古市内に点在し、緊急時などに迅速な対応を取りにくい状況にあります。近隣に物件を探していますが、震災の影響もあり、高価な物件しかなく、なかなか見つかりません。

立花　盛岡圏域でも震災の影響で賃貸物件が少なくなっています。

主濱　共同生活事業所「中山の園」には、支援の拠点となる事務所があり、「二戸」、「八幡平」への対応も行っています。今後は、岩手町・八幡平市、二戸市とそれぞれの圏域に拠点機能を備え、支援体制を強化する必要があると思います。

法人のネットワークを利用した支援を（及川）

及川　ご自分で意思表示するのが難しい方が地域移行しようとする場合、ご家族の中には、「失敗したら」と懸念されるご家族もいらっしゃいます。そのときには、『地域生活を経験する大切さ』を伝えるようにしています。当法人の強みは、施設間のネットワークであると思います。本人とご家族のニーズに沿い、ネットワークを活用した支援を行っていきたいと思います。

共同生活事業所「オリザ」
サービス管理責任者
及　川　友　枝

小林　**座談会を通して、入居者の高齢化への対応、迅速な支援体制の整備の必要性など、共通する課題が見えてきました。その課題に当法人のネットワークを活用し、職員一丸となって取り組み、地域における障がい者の自立した生活を支えていきましょう。**

本日はありがとうございました。